

# 南陽っ子だより ⑩


## ① 子供たちが抱える

### 苦しみに対する理解の深化。

私の友人から聞いた話です。担任していた子に学習意欲が感じられず、授業中もじっとして、話を聞いているのかどうかも分からない様子でした。テストの時にも何も書かずじっとしているだけ。まだ若かった友人は、その子がわがままな態度をとっていると思い、何度かその態度を責めたそうです。ところがある時、テストにふり仮名を打ってあげると、安心したように黙々と問題に取り組み、その結果、高得点をとれたのだそうです。点数を見た時のその子の笑顔がとても印象に残っているのだそうです。

その子は、漢字の読みに困り感を抱えていたため、学習に取り組もうとしても取り組めなかったのです。つまり、漢字を読むことに困り感をもつ「ディスレクシア」だったのです。

(Teens ホームページより)



### 黒板の板書をノートに写そうとしない子 「あの子はやる気がないのかな？」

**書字の苦手さが原因？**  
ディスレクシアの方は、会話でのやりとりは問題なくできますが、文字の読み書きに困難さがあります。

誤字脱字が多い、乱雑で読みにくい、枠からはみ出してしまうなど…書くことに対する苦手意識が強くなっている可能性があります。

重箱

**眼球運動に課題があるかも？**  
目の運動能力が弱いタイプの方は、視線をジャンプさせることが得意ではありません。

この特性がある方は、黒板を見た後に、ノートに視線を戻して文字を書く…という作業でも苦勞します。

👁️👁️

**ワーキングメモリ (WM) が弱いのかも？**  
ワーキングメモリーというものがあります。これは「一時的に情報を脳に保持し、処理する能力」です。

発達障害の方のなかにはこのWMの能力が弱いタイプの方が多く、眼球運動同様、板書を写すのに苦勞をする可能性があります。

🧠

## 困っているのはその子自身です

図のように、読むことに困り感を抱えている方でも、その原因は様々です。

以前は多数派の概念により、「やる気がない子」というレッテルを貼られて、放っておかれた末、自信を失っていた子供たちが多くいたのです。

しかし、「困り感」を抱えた子供の行動の原因に焦点が当てられ、数多くの研究がされてきています。その結果、現在ではどこにその原因があるのかを探ることができるようになってきています。



上のイラストのような「困り感」を抱えた子は、実は大変「困っている子」「苦しんでいる子」なのです。

現在は、「困っている子」「苦しんでいる子」への理解が深まり、支援の手立てが数多く考えられています。その子がどこで困っていて、どのような手立てが有効なのか、アセスメントをすることで「困り感」の原因に迫ることが可能です。

左の「ディスレクシア」の例を一つとっても様々な原因が考えられます。なぜ「同じ学習を繰り返しても理解できないのか」「なぜ集団に入るのが苦手なのか」、一人一人の行動の裏側には、「そうになってしまう原因」が必ず存在するのです。

# 南陽っ子だより ①①

## ② 特別支援教育の内容の変化。

### 特殊教育から特別支援教育へ

以前は「特殊教育」と呼ばれていたものが、平成19年度に、支援の対象を広げ「特別支援教育」として大きな転換が行われました。

これまでの支援対象児童に加えて通常学級に在籍する「困り感」を持つ子供を含めて、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育を行っています。

学校だけでなく、医療や福祉、教育センターなどの関係機関とも連携しながら適切な支援を行っています。

### 「特別支援」は「特別」なことではない

「特別支援教育」とは、すべての子供に効果がある特別な指導法があるわけではなく、その子に応じた指導法(学習法)を考えるという極めてシンプルなことではないかと思えます。

どのクラスにも「読み書きが苦手」「聴くことが苦手」「いつもぼーっとしている」「ブレーキがきかない」「パニックを起こす」「友達とうまくいかない」など、ちょっと気になる子どもがいると思えます。

そのような子どもたちに対しては、「見通しをもてるようにすること」「目からの情報が有効なためにできるだけ視覚で分かる教材を使うこと」「できるだけほめること」などの対応が考えられます。

これらの対応は、実はその子のために行う工夫ですが、他の子どもたちにも有効な手立てであることが多いといわれています。

### 「何に困っているのか」に焦点を当てる

例えば、漢字をなかなか覚えられない子供の場合、「覚えることが難しい」「形を正しく見ることが難しい」「注視することが難しい」「文字と読みとを結びつけるのが難しい」など、様々な原因が考えられます。

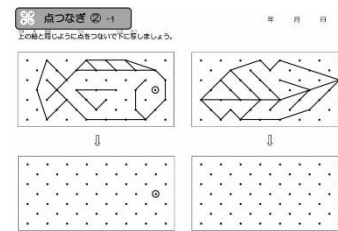
これは、「一人一人が違う」から「当たり前のこと」なのです。同じ「匂い」という情報でも「良い香り」と感じる人もいれば「不快なおい」と感じる人もいます。

漢字を情報として捉えた場合、「止め」「はね」「はらい」などを正確に見ることができる人もいれば、「ごちゃごちゃに見えてしまう」「文字が動いて見えてしまう」「どこにどの画を書くのか分からない」など、正確に見とることが難しい人もいます。

また、大勢がいる教室では、刺激が多すぎて集中できない子もいます。「どうしても周囲を見てしまう。」「鉛筆で書く音が耳に響いて耐えられない」など感覚が過敏な人もいます。

### 「困っている自分」→「自分に自信を持てる」

このように「一人一人が違う存在」だからこそ、一人一人の「困り感」に寄り添い、その子にあった支援(学習)方法を与えることで、「困っている自分」から、「できた」「やれた」という実感を得ることで「自分に自信を持つ」ことができ、生き生きと社会の中で生活していくことを目的としています。



形を捉えるのが苦手な子  
のための課題 (コグトレより)

以前の「特殊教育」とは学習の内容が変わり、「特別」なことは何もない、だれもが自信をもって幸せに生きるための教育へと変わってきていることが伝わったでしょうか?そのことを周囲が理解することも「合理的配慮」のひとつです。

# 南陽っ子だより ⑫

## ③ 苦しみを抱えた子供たちや 保護者への支援体制

### 日本は発達障害の人の数が多い国!!

日本に発達障害(特に自閉症スペクトラムは世界で一番多いそうです。)が多い理由にはこんなことが挙げられます。

それは「空気を読む」ことです。日本はハイコンテキスト社会と呼ばれ、空気を読まなければならない社会です。反対にローコンテキスト社会がありますが、これはヨーロッパやアメリカに多く、空気を読むことをそんなに意識していない社会です。ハイコンテキスト社会の日本では、空気を読めず、発達障害や自閉症スペクトラムなどの障害者と診断されてしまうのです。障害者は個性が強いのですが、空気を読めないことは、個性として通用しないのです。これは障害者にとって不利な社会です。これが原因で障害者となるケースが多いと思われます。 (<https://taijinkankei-nigate.com/>より引用)

対人関係が苦手な人が、周りの人の考えていることをくみ取ることは最も苦手とすることです。この「空気を読む」と支援通信4号で紹介した「恥の文化」には、共通する部分があるように思います。

### 「大丈夫という大人」何が大丈夫なの?

もし、ご自分のお子さんが何かしら「困り感」を抱えているのかもしれない。そういう不安を抱かれた場合、どのようにされますか?おそらく、身近な友人、親戚などに相談するケースがほとんどだと思います。

それでは、もしそのような相談を受ける立場になられたら、どのようなアドバイスを送りますか。不安がっている友人を勇気づけようと「大丈夫。その内、分かるようになるさ。」という言葉をかける方もいるでしょう。

でも、本当に大丈夫なのでしょうか?「困っている」子供には将来があります。環境を変えることで、自信を取り戻すこともできます。

「学校に相談してみたら?」という一言を掛けていただけた方が、「困っている子供の助け」になります。

- ①相手を尊重していますか?
- ②相手の立場や状況を想像していますか?
- ③相手の話に耳を傾け共感していますか?

ここでも、「マイクロアグレッション」を防ぐ考え方が生かされますね。

### 長崎市の支援機関について

どような「支援」があるの?

発達障害者支援法に基づき、長崎市を始めとした関係機関において、様々な取組みが進められています。詳しくは⑤⑥へ

まずは身近な人や、下記へ相談してみませんか?

- 発達障害児に関する相談・支援・診断・治療・療育
  - 長崎発達障害者支援センター(長崎市東区1-1-1)
  - TEL 095(842)2525 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 子育てに関する相談
  - 長崎子育てサポート課(相談専用)
  - TEL 095(822)3725
  - ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 乳幼児の健康・健診などに関する相談
  - 長崎市中央総合事務所 地域福祉課
  - TEL 095(829)1429
  - ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 9:00～17:30
- 障害児に関する就学相談・教育相談
  - 長崎市教育委員会教育研究部
  - TEL 095(813)9001
  - ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 発達障害児に関する児童発達支援センター(中核施設)
  - つくもんぽ
  - TEL 095(842)2525 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
  - ※おききゆうゆうの館 赤十字センター
  - TEL 095(923)2573 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:00
  - 児童発達支援センターげんき
  - TEL 095(840)0400 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
  - ※1歳以上(1歳児) 年休(年休を除く) 10:00～17:00
- 未就学児童の親の交流・相談
  - 長崎インターネット子育て支援センター「しおき」
  - TEL 095(840)0116 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 発達障害児(者)に関する相談等
  - 長崎発達障害者支援センター「しおき」
  - TEL 095(840)0116 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 発達障害児に関する相談・支援・診断・治療・療育
  - 長崎発達障害者支援センター-小児科
  - TEL 095(722)2300 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- こどもに関する相談
  - 長崎発達障害者支援センター「しおき」
  - TEL 095(840)0116 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:45
- こども心療科外来 発達外来等
  - 独立行政法人 国立長崎医療研究センター
  - TEL 095(823)2261 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:00
- 発達障害児者の親の交流・相談・勉強
  - 長崎発達障害者支援センター「しおき」
  - TEL 095(840)0116 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 自閉スペクトラム症について
  - (発達障害者支援センター) 発達障害者支援センター
  - TEL 095(840)0116 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30
- 発達相談に関する相談など
  - ペアレント・トレーニング 長崎 https://parentmentor-nagasaki.com/
  - TEL 095-895-5229
- 診断がなくてもOKの相談形式相談会
  - (発達障害者支援センター) 発達障害者支援センター
  - TEL 095(840)0116 ※月～金曜日(祝日) 年休(年休を除く) 10:00～17:30

発行日 令和5年7月  
発行所 長崎発達障害者支援センター 〒850-0000 長崎市東区1-1-1  
電話 095(829)1141 メール shoufukacity.nagasaki.lg.jp

長崎市では、もりまちハートセンター・子育てサポート課・長崎市教育研究所などの行政機関を中心に、困り感を抱えたお子さんや保護者の方のサポートの体制をとっています。その他にも、小児科発達外来を開設している医療機関も増えてきています。医療機関とつながっていることは、成人してもその子のサポートを継続できるメリットがあります。

長崎市ホームページより～支援機関の紹介～